2012/5/14

第５章　都市化と集積

W23-0141F　藤本慎太郎

概要

　都市化はこれからの最も主要な開発問題の１つとなっていく。なぜ都市が存在するのか。そのメリット・デメリットは何なのか。

第1節　都市はなぜ存在するか

・都市の定義：非農業（工業、サービス業）生産活動人口が圧倒的な地理的空間
　　（つまり非農業生産活動の集積地、ビルや工場の密集）

都市化は功罪両面を持つ

功→産業の集結により全体としての生産効率の向上

⇕

罪→過剰な都市化は混雑によって生じる負の効果が生産力に与える正の効果を上回り、必ずしも好ましくない局面をもたらし、他との著しい格差を生む

第2節　集積力をどう説明するか

人口が特定の場所に引き付けられるのはなぜか？

理由・非農業生産活動がとくに高い生産性を実現できる。
　・消費者としてとくに高い効用を得られるから。

⇩

① 自然・制度に由来する優位性（先天的に備わった性質）

自然：特定の非農業生産の技術的優位性がある場所に備わっている

→よってある地域に産業が集まり都市が発展

制度：首都に企業の情報収集や中枢管理機能が集中し、道路や鉄道の結束点や港の近くに工場立地が進みやすい。

② 集積の経済（後天的に表現されたもの）

(1) 大規模生産のメリット（規模の経済）

企業にとって生産設備を１ヵ所に集めるインセンティブを与えること。

→企業城下町を形成

(2) 地域特化のメリット

同業種の企業が多数集まる→その中の個々の企業は単独で操業するよりも高い生産性が得られる。その産業に固有な労働市場が形成されること

(3) 都市化のメリット

多種多様な産業が特定の地域に集中立地

→消費の選択の幅が広がり消費者の満足度を高めたり、企業や産業の効率性を向上させることができる

加えて、、、労働市場を通じたメリットも発生する。

第3節　集積から離れようとする力との拮抗

(1) ローカル・コストの差

都市・産業集積では生産性が高い⇔労働者の賃金や地代などローカル・コストが高い

(2) 混雑効果

相互作用が活発になるゆえに増大するコストや効用の低下＝交通混雑や公害

混雑効果＞集積の経済→都市の産業・人口流失

(3) 輸送費

輸送費は極端に高くても低くてもいけない。

都市が存在するには

自然条件・制度に由来する優位性か、**後天的に獲得した集積の経済の働き**による生産性の高さが分散力を上回ることが必要。

⇩

集積の経済の働き→現代の都市を説明するのに最も本質的な重要性を持っている

第4節　均衡における都市規模とその効率性

(1) 均衡都市規模

農村部から都市部への人口移動

農村部：労働 1 人当たりの耕地面積増大、農業賃金の上昇→農民の効用水準を向上

都市部：生産増に伴う集積効果による生産性と賃金上昇

⇔公害の発生などマイナス効果。

⇩ つまり

都市住民の経済厚生への影響の方向はこれら 2 つの効果の大小関係によって決まる。

(2) 均衡の効率性

均衡に関する 2 つの効率

① 既存の都市内における資料配分の効率性

(1)マーシャルの外部性

(2)混雑効果による外部不経済

② 都市数の決定に関する効率性

むすび

現在世界各国の都市が直面する課題

・公害や犯罪の防止、インフラの改善、農村との格差是正など

解決には？

・都市化メカニズム全体を視野に入れた分析が不可欠。

巨大都市の形成過程では、

生産や消費に関わる集積のメリットがより重要な役割を果たす。

集積メリットが存在するとき、均衡都市規模は 2 つの意味で非効率。

① 均衡では都市部における生産が過小

② 都市の数が過小